

1

問題のページへ

(1) 条件より, $A = \begin{pmatrix} a & -1 \\ 1 & a \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} r \cos \theta & -r \sin \theta \\ r \sin \theta & r \cos \theta \end{pmatrix}$ なので,

$$a = r \cos \theta \dots\dots\dots, \quad 1 = r \sin \theta \dots\dots\dots$$

$$\text{より, } a^2 + 1 = r^2 \text{ となり, } r > 0 \text{ から, } r = \sqrt{a^2 + 1}$$

$$\cos \theta = \frac{a}{\sqrt{a^2 + 1}}, \quad \sin \theta = \frac{1}{\sqrt{a^2 + 1}}$$

(2) 1 次変換 f によって, 平面上の点は, 原点のまわりに θ だけ回転し, さらに原点との距離が r 倍となる点に移るので, $Q_1(1, 0)$ に対し, $Q_{n+1} = f(Q_n)$ から,

$$Q_n(r^{n-1} \cos(n-1)\theta, r^{n-1} \sin(n-1)\theta)$$

すると, OQ_nQ_{n+1} の面積 $S(n)$ は, (1)より,

$$S(n) = \frac{1}{2} r^{n-1} r^n |\sin \theta| = \frac{1}{2} (\sqrt{a^2 + 1})^{2n-1} \cdot \frac{1}{\sqrt{a^2 + 1}} = \frac{1}{2} (a^2 + 1)^{n-1}$$

(3) $A^{-1} = \frac{1}{r} \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ より, $A^{-1} \begin{pmatrix} 2 \\ 7 \end{pmatrix} = \frac{1}{r} \begin{pmatrix} 2 \cos \theta + 7 \sin \theta \\ -2 \sin \theta + 7 \cos \theta \end{pmatrix}$ となり, 条件から,

$$\frac{3}{2} \cdot \frac{1}{r} (2 \cos \theta + 7 \sin \theta) < \frac{5}{2}$$

(1)より, $\frac{3}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{a^2 + 1}} \left(\frac{2a}{\sqrt{a^2 + 1}} + \frac{7}{\sqrt{a^2 + 1}} \right) < \frac{5}{2}$, $\frac{3}{2} \cdot \frac{2a+7}{a^2+1} < \frac{5}{2}$ であるので,

$$3a^2 + 3 < 4a + 14 \dots\dots\dots, \quad 5a^2 + 5 > 4a + 14 \dots\dots\dots$$

$$\text{より, } 3a^2 - 4a - 11 < 0 \text{ となり, } a > 0 \text{ なので, } 0 < a < \frac{2 + \sqrt{37}}{3}$$

$$\text{より, } 5a^2 - 4a - 9 > 0, (5a - 9)(a + 1) > 0 \text{ となり, } a > 0 \text{ なので, } a > \frac{9}{5}$$

すると, $\frac{8}{3} < \frac{2 + \sqrt{37}}{3} < 3$ から, $\frac{8}{3} < a < 3$ を満たす自然数 a は, $a = 2$ である。

このとき $S(n) > 10^{10}$ から, $\frac{1}{2} \cdot 5^{n-1} > 10^{10}$, $5^n > 10^{11}$ となり, 両辺の対数をとって,

$$n(\log_{10} 5) > 11, \quad n(1 - \log_{10} 2) > 11, \quad n > \frac{11}{1 - \log_{10} 2} \dots\dots\dots$$

$$\text{ここで, } 0.3 < \log_{10} 2 < 0.31 \text{ から, } 15.7 < \frac{11}{0.7} < \frac{11}{1 - \log_{10} 2} < \frac{11}{0.69} < 16$$

よって, $\frac{8}{3} < a < 3$ を満たす最小の n は $n = 16$ である。

[解 説]

相似変換が題材となっています。この意味を考えると, A^n の計算は, 必要不可欠ではありません。

2

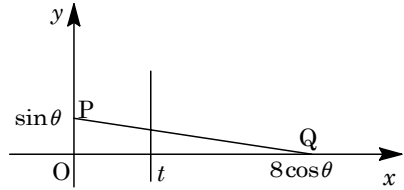
問題のページへ

まず、 $\theta = \frac{\pi}{2}$ のとき、線分 PQ を表す方程式は、 $x = 0$ ($0 \leq y \leq 1$) である。

また、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき、線分 PQ を表す方程式は、

$$y = -\frac{\tan \theta}{8}x + \sin \theta \quad (0 \leq x \leq 8 \cos \theta)$$

さて、直線 $x = t$ ($0 \leq t \leq 8 \cos \theta$) 上における y のとりうる値の範囲を求める。



ここで、 $f(\theta) = -\frac{t}{8} \tan \theta + \sin \theta$ とおくと、

$$f'(\theta) = -\frac{t}{8} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} + \cos \theta = \frac{8 \cos^3 \theta - t}{8 \cos^2 \theta}$$

すると、 $0 \leq t \leq 8 \cos \theta$ から $0 \leq \sqrt[3]{t} \leq 2 \sqrt[3]{\cos \theta}$ となり、 $\cos \alpha = \frac{\sqrt[3]{t}}{2}$ となる α がただ 1 つ存在する。また、 $8 \cos \beta = t$ ($\cos \beta = \frac{t}{8}$) とおくと、

$\frac{\sqrt[3]{t}}{2} \leq \frac{t}{8}$ から、 $\alpha \leq \beta$ である。

θ	0	...	α	...	β
$f'(\theta)$		+	0	-	
$f(\theta)$	0	↗		↘	0

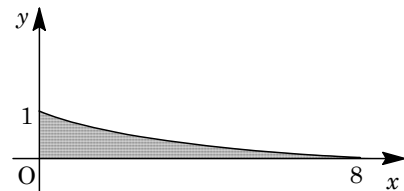
これより、 $f(\theta)$ の増減は右表のようになり、

$$\begin{aligned} f(\alpha) &= -\frac{t}{8} \tan \alpha + \sin \alpha = \sin \alpha \left(-\frac{t}{8 \cos \alpha} + 1 \right) = \sqrt{1 - \frac{t^{\frac{2}{3}}}{4}} \left(-\frac{t^{\frac{2}{3}}}{4} + 1 \right) \\ &= \frac{(4 - t^{\frac{2}{3}})^{\frac{1}{2}}}{2} \cdot \frac{4 - t^{\frac{2}{3}}}{4} = \frac{1}{8} (4 - t^{\frac{2}{3}})^{\frac{3}{2}} \end{aligned}$$

よって、線分 PQ が通過する部分 D は、

$$0 \leq y \leq \frac{1}{8} (4 - x^{\frac{2}{3}})^{\frac{3}{2}}$$

したがって、D を x 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積 V は、



$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^8 \frac{1}{64} (4 - x^{\frac{2}{3}})^3 dx = \frac{\pi}{64} \int_0^8 (64 - 48x^{\frac{2}{3}} + 12x^{\frac{4}{3}} - x^2) dx \\ &= \frac{\pi}{64} \left[64x - 48 \cdot \frac{3}{5} x^{\frac{5}{3}} + 12 \cdot \frac{3}{7} x^{\frac{7}{3}} - \frac{1}{3} x^3 \right]_0^8 = \frac{\pi}{64} \left(2^9 - \frac{9}{5} \cdot 2^9 + \frac{9}{7} \cdot 2^9 - \frac{1}{3} \cdot 2^9 \right) \\ &= 2^3 \pi \left(1 - \frac{9}{5} + \frac{9}{7} - \frac{1}{3} \right) = \frac{128}{105} \pi \end{aligned}$$

【解説】

線分の通過領域を求める際に、1 文字を固定して処理する有名問題です。なお、定積分の数値計算が面倒なので、変数を取り直した方がよかったですかもしれません。

3

問題のページへ

(1) $f(x) = (x-p)^2 + q$ に対して、条件から、 $f(0) = 1$ となり、 $p^2 + q = 1$ ……

次に、 $y = f(x)$ と $y = x$ を連立して、

$$(x-p)^2 + q = x, \quad x^2 - (2p+1)x + p^2 + q = 0 \dots\dots$$

$x > 0$ で、 $y = f(x)$ と $y = x$ が接することより、 $f(x) = x$ は正の重解をもち、

$$D = (2p+1)^2 - 4(p^2 + q) = 0 \dots\dots, \quad 2p+1 > 0 \dots\dots$$

より、 $(2p+1)^2 = 4$ となり、から、 $2p+1 = 2$, $p = \frac{1}{2}$

に代入すると、 $q = \frac{3}{4}$ となり、このとき の重解は、 $x = \frac{2p+1}{2} = 1$

よって、接点の座標は、 $(1, 1)$ である。

(2) $g(x) = f_2(x) - f_1(x)$ とおくと、条件より $g(\alpha) > 0$ かつ $g(\beta) > 0$ であり、

$$g(x) = (x-p_2)^2 + q_2 - (x-p_1)^2 - q_1 = -2(p_2-p_1)x + p_2^2 - p_1^2 + q_2 - q_1$$

(i) $p_2 > p_1$ のとき $g(x)$ は単調に減少し、 $\alpha < x < \beta$ において、 $g(x) > g(\beta) > 0$

(ii) $p_2 < p_1$ のとき $g(x)$ は単調に増加し、 $\alpha < x < \beta$ において、 $g(x) > g(\alpha) > 0$

(i)(ii)より、 $\alpha < x < \beta$ において $f_1(x) < f_2(x)$ が成り立つ。

(3) 点 $(0, 1)$ を通り、直線 $y = x$ と点 $(1, 1)$ で接する放物線

は、(1)より、

$$y = \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{4} = x^2 - x + 1$$

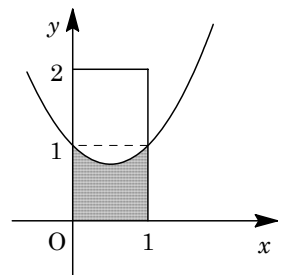
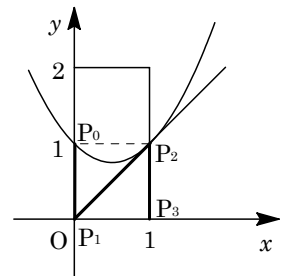
この放物線を $y = f_1(x)$ とおき、放物線 $y = f(x)$ が、不等式 $1 = f_1(0) < f(0)$ かつ $1 = f_1(1) < f(1)$ を満たすとすると、(2)より、 $y = f(x)$ は折れ線 L と共有点をもたない。

また、 $f(0) < f_1(0)$ または $f(1) < f_1(1)$ が満たされるとき、長方形 R を通過する放物線 $y = f(x)$ は、折れ線 L と共有点をもつ。

そこで、長方形 R を通過する放物線 $y = f(x)$ を、折れ線 L と共有点がないように動かすとき、 $y = f(x)$ が通過する領域は、 $y = f_1(x)$ の上部全体となる。

したがって、長方形 R から、上記の通過領域 T を除いた領域 S を図示すると、右図の網点部となる。ただし、境界線は含む。また、この領域 S の面積は、

$$\int_0^1 (x^2 - x + 1) dx = \frac{1}{3} - \frac{1}{2} + 1 = \frac{5}{6}$$



[解 説]

(3)の論理展開は感覚的すぎるといながらも、この程度の記述に留めました。

4

問題のページへ

(1) 三角不等式を用いて、 $|px+q| \leq |px|+|q| = |p||x|+|q| \dots\dots\dots$

また、 $x \geq 1$ であれば、

$$|p||x|+|q| = |p|x+|q| \leq |p|x+|q|x = (|p|+|q|)x \dots\dots\dots$$

そこで、 $|p|+|q|=r$ とおくと、 $x \geq 1$ より、 $|px+q| \leq rx$ となる。

(2) まず、 $f(x)-(x+k)^3 = (x^3+ax^2+bx+c)-(x+k)^3$
 $= (a-3k)x^2 + (b-3k^2)x + (c-k^3)$

$$k = \frac{a}{3} > 0 \text{ の場合は、 } |f(x)-(x+k)^3| = \left| \left(b - \frac{a^2}{3}\right)x + \left(c - \frac{a^3}{27}\right) \right|$$

そこで、 $x \geq 1$ のとき、 $\left|b - \frac{a^2}{3}\right| + \left|c - \frac{a^3}{27}\right| = l$ とおくと、(1)より、

$$|f(x)-(x+k)^3| \leq lx \dots\dots\dots$$

また、 a, b, c は正の定数より、 $x \geq 1$ のとき、

$$\left(\sqrt[3]{f(x)}\right)^2 + \sqrt[3]{f(x)}(x+k) + (x+k)^2 \geq \left(\sqrt[3]{x^3}\right)^2 + \sqrt[3]{x^3} \cdot x + x^2 = x^2 \dots\dots\dots$$

より、

$$\left| \sqrt[3]{f(x)} - x - k \right| = \frac{|f(x)-(x+k)^3|}{\left(\sqrt[3]{f(x)}\right)^2 + \sqrt[3]{f(x)}(x+k) + (x+k)^2} \leq \frac{lx}{x^2} = \frac{l}{x}$$

(3) 正の数 k の整数部分を $[k]$ 、小数部分を α とすると、 $0 < \alpha < 1$ である。

さて、(2)より、すべての自然数 n に対して、

$$\left| \sqrt[3]{f(n)} - n - [k] - \alpha \right| \leq \frac{l}{n}, \quad \alpha - \frac{l}{n} \leq \sqrt[3]{f(n)} - n - [k] \leq \alpha + \frac{l}{n} \dots\dots\dots$$

また、区間 $I_n : \alpha - \frac{l}{n} \leq x \leq \alpha + \frac{l}{n}$ とおくと、 $I_1 \supset I_2 \supset I_3 \supset \dots \supset I_n \supset \dots$ となる。

(i) $0 < \alpha < 1$ のとき

区間 $J : 0 < x < 1$ とすると、 $n \geq n_0$ において $J \cap I_n$ となる n_0 が存在する。しかし、 $\sqrt[3]{f(n)} - n - [k]$ は整数であることから、 $J \cap I_n = \emptyset$ は成立しない。

(ii) $\alpha = 0$ のとき

$$\text{より、 } -\frac{l}{n} \leq \sqrt[3]{f(n)} - n - [k] \leq \frac{l}{n} \dots\dots\dots$$

ここで、 $[k] = m > 0$ とおくと、十分大きな n に対しても $\sqrt[3]{f(n)} - n - m > 0$ が成立することより、

$$\sqrt[3]{f(n)} - n - m = 0, \quad f(n) = (n+m)^3 \dots\dots\dots$$

すると、3次関数 $f(x)$ に対し、任意の自然数 n に対して $\sqrt[3]{f(n)} - n - m = 0$ が成立するので、

$$f(x) = (x+m)^3$$

[解 説]

(3)は、 k が整数であることを示すのがポイントですが、その記述方法は.....。

5

問題のページへ

(1) 漸化式 $a_1 = 0$, $a_2 = r$, $a_{n+1} = a_n + r_n(a_n - a_{n-1})$ ($n = 2, \dots$) に対して,

$$r_n = \frac{r}{2} \text{ (硬貨を投げ表がでたとき)}$$

$$r_n = \frac{1}{2r} \text{ (硬貨を投げ裏がでたとき)}$$

まず, 硬貨を 1 回投げ表がでたとき, $a_3 = a_2 + \frac{r}{2}(a_2 - a_1) = r + \frac{r}{2} \cdot r = r + \frac{r^2}{2}$

また, 硬貨を 1 回投げ裏がでたとき, $a_3 = a_2 + \frac{1}{2r}(a_2 - a_1) = r + \frac{1}{2r} \cdot r = r + \frac{1}{2}$

よって, a_3 の期待値 p_3 は,

$$p_3 = \frac{1}{2} \left(r + \frac{r^2}{2} + r + \frac{1}{2} \right) = \frac{r^2}{4} + r + \frac{1}{4}$$

さらに, もう一度, 硬貨を投げると,

$$(i) \text{ 表 表のとき } a_4 = a_3 + \frac{r}{2}(a_3 - a_2) = r + \frac{r^2}{2} + \frac{r}{2} \cdot \frac{r^2}{2} = r + \frac{r^2}{2} + \frac{r^3}{4}$$

$$(ii) \text{ 表 裏のとき } a_4 = a_3 + \frac{1}{2r}(a_3 - a_2) = r + \frac{r^2}{2} + \frac{1}{2r} \cdot \frac{r^2}{2} = \frac{5}{4}r + \frac{r^2}{2}$$

$$(iii) \text{ 裏 表のとき } a_4 = a_3 + \frac{r}{2}(a_3 - a_2) = r + \frac{1}{2} + \frac{r}{2} \cdot \frac{1}{2} = \frac{1}{2} + \frac{5}{4}r$$

$$(iv) \text{ 裏 裏のとき } a_4 = a_3 + \frac{1}{2r}(a_3 - a_2) = r + \frac{1}{2} + \frac{1}{2r} \cdot \frac{1}{2} = r + \frac{1}{2} + \frac{1}{4r}$$

よって, a_4 の期待値 p_4 は,

$$\begin{aligned} p_4 &= \frac{1}{4} \left(r + \frac{r^2}{2} + \frac{r^3}{4} + \frac{5}{4}r + \frac{r^2}{2} + \frac{1}{2} + \frac{5}{4}r + r + \frac{1}{2} + \frac{1}{4r} \right) \\ &= \frac{r^3}{16} + \frac{r^2}{4} + \frac{9}{8}r + \frac{1}{4} + \frac{1}{16r} \end{aligned}$$

(2) $b_n = a_{n+1} - a_n \dots$ とおくと, $b_1 = r - 0 = r$ で, から, $b_n = r_n b_{n-1}$ となり,

$$b_n = b_1 \cdot r_2 r_3 \cdots r_n = r \cdot r_2 r_3 \cdots r_n \quad (n = 2)$$

ところで, 硬貨を $n-1$ 回投げたとき, 表が k 回, 裏が $n-1-k$ 回でたとすると,

$$b_n = r \left(\frac{r}{2} \right)^k \left(\frac{1}{2r} \right)^{n-1-k} = \frac{r^{2k-n+2}}{2^{n-1}}$$

また, このときの確率は, ${}_{n-1}C_k \left(\frac{1}{2} \right)^k \left(\frac{1}{2} \right)^{n-1-k} = {}_{n-1}C_k \left(\frac{1}{2} \right)^{n-1}$ となる。

そこで, b_n の期待値を q_n とするとき,

$$\begin{aligned} q_n &= \sum_{k=0}^{n-1} \frac{r^{2k-n+2}}{2^{n-1}} \cdot {}_{n-1}C_k \left(\frac{1}{2} \right)^{n-1} = \frac{r^{-n+2}}{4^{n-1}} \sum_{k=0}^{n-1} {}_{n-1}C_k r^{2k} = \frac{r}{(4r)^{n-1}} \sum_{k=0}^{n-1} {}_{n-1}C_k r^{2k} \\ &= \frac{r}{(4r)^{n-1}} (1+r^2)^{n-1} = r \left(\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} \right)^{n-1} \end{aligned}$$

なお, この式は $n=1$ のときも成立する。

さて, に対して, 両辺の期待値をとると, $q_n = p_{n+1} - p_n \dots$

$p_1 = 0$ なので、より、

$$p_n = p_1 + \sum_{i=1}^{n-1} q_i = r \sum_{i=1}^{n-1} \left(\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} \right)^{i-1} \quad (n \geq 2)$$

(i) $\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} \neq 1$ ($r \neq 2 \pm \sqrt{3}$) のとき

$$p_n = r \cdot \frac{1 - \left(\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} \right)^{n-1}}{1 - \left(\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} \right)} = \frac{-4r^2}{r^2 - 4r + 1} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} \right)^{n-1} \right\}$$

(ii) $\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} = 1$ ($r = 2 \pm \sqrt{3}$) のとき

$$p_n = r(n-1)$$

(3) 数列 $\{p_n\}$ が収束する条件は、 $r > 0$ から、

(i) $r \neq 2 \pm \sqrt{3}$ のとき

$$\frac{1}{4r} + \frac{r}{4} < 1, \text{ すなわち } r^2 - 4r + 1 < 0 \text{ より, } 2 - \sqrt{3} < r < 2 + \sqrt{3}$$

(ii) $r = 2 \pm \sqrt{3}$ のとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} p_n = \infty \text{ より, 不適である。}$$

(i)(ii)より、求める条件は、 $2 - \sqrt{3} < r < 2 + \sqrt{3}$

$$(4) (3) \text{ のとき, } \lim_{n \rightarrow \infty} p_n = \frac{-4r^2}{r^2 - 4r + 1} = \frac{4}{-1 + \frac{4}{r} - \frac{1}{r^2}} = \frac{4}{-\left(\frac{1}{r} - 2\right)^2 + 3}$$

ここで、 $2 - \sqrt{3} < r < 2 + \sqrt{3}$ より、 $2 - \sqrt{3} = \frac{1}{2 + \sqrt{3}} < \frac{1}{r} < \frac{1}{2 - \sqrt{3}} = 2 + \sqrt{3}$ となり、

$$0 < -\left(\frac{1}{r} - 2\right)^2 + 3 < 3$$

したがって、 $\frac{1}{r} = 2$ ($r = \frac{1}{2}$) のとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} p_n$ は最小値 $\frac{4}{3}$ をとる。

[解 説]

式は、「和の期待値は期待値の和」という考え方をを用いています。阪大の出題範囲からすると、捻破りですが。